

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長 崎 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	松浦市立 調川中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数 1 4
学級数	1	2	1	0	4	
生徒数	2 4	4 1	3 4	0	9 9	

研究の概要

1. 研究主題

生き生きと学ぶ生徒の育成
～確かな学力の向上をめざして～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～3年数学
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、習熟の程度に応じた指導がより必要となるため
- ・ 1～3年英語
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、習熟の程度に応じた指導がより必要となるため

(2) 年次ごとの計画

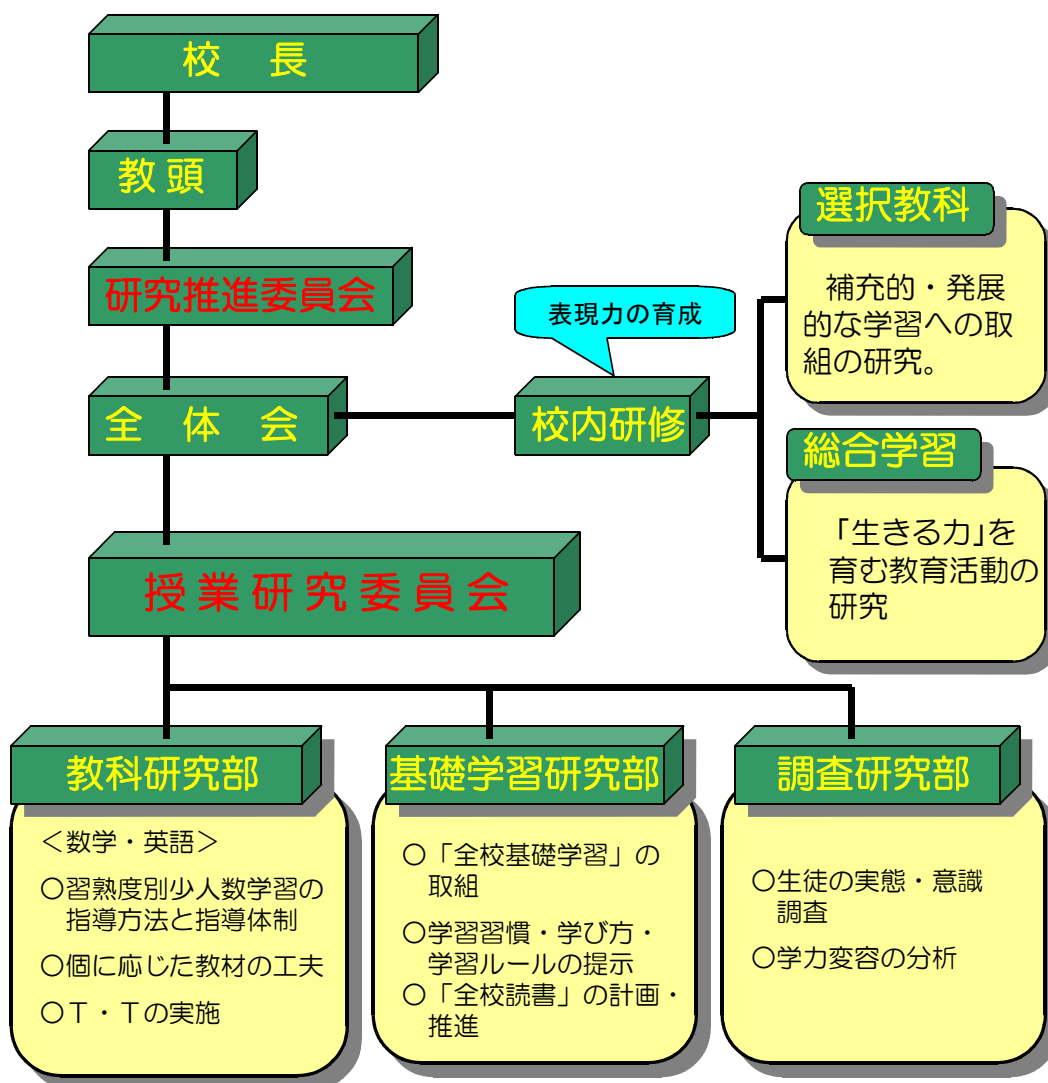
平成 15 年 度	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>研究の見通し(仮説) 少人数指導やT・T、習熟度別少人数指導など、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善を行うことにより、基礎的・基本的な事項が定着し、学力の向上が図れるであろう。また、学習形態の工夫など、一人一人を配慮した活動の場の設定を行えば、意欲が向上し、主体的に学ぶことができ、生き生きとした表現力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法 習熟度別少人数学習、T・Tにおける指導 ・研究授業を行い、指導の在り方について研究を深める。 ・生徒の実態調査を行い、効果的な指導について探る。 全校基礎学習における指導 ・基礎基本の定着を目指した、継続的な指導について研究する。</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材の開発</p> <p>研究の見通し 少人数指導やT・T、習熟度別少人数指導、教材の開発など、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善を行うことにより、基礎的・基本的な事項が定着し、学力の向上が図れるであろう。また、学習形態の工夫など、一人一人を配慮した活動の場の設定を行えば、意欲が向上し、主体的に学ぶことができ、生き生きとした表現力が身に付くであろう。</p>
--------------------	---

研究の内容・方法
 習熟度別少人数学習，T・Tにおける指導
 個に応じた指導のための教材の開発
 ・研究授業を行い，指導の在り方について研究を深める。
 ・生徒の実態調査を行い，効果的な指導について探る。
 全校基礎学習における指導
 ・基礎基本の定着を目指した，継続的な指導について研究する。

(3) 研究推進体制

4 研究組織図



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・数学科・英語科において、各学級で習熟度別少人数学習を実施し、その指導体制が整い、個に応じた指導方法の工夫改善がなされてきた。
- ・個に応じた指導方法の工夫改善の結果、特に基礎的・補足的な学習コースにおいて、意欲的に取り組む生徒が増えた。また、学力が懸念された学年において実施した、年3回の校内基礎力テストの結果、基本的事項の定着が徐々に見られるようになった。
- ・少人数であるため、一人一人とより多くコミュニケーションを取ることができ、英語嫌いの生徒の減少が見られた。
- ・英語を「好き・どちらかといえば好き」と答えた生徒は全国平均の58.7%を上回り、66%であった。また、全校生徒の3分の1が自主的に英語検定を受けるなどの前向きな姿勢も見られた。ペアやグループでの学習活動をふんだんに取り入れ、生徒が主体的に学ぶことができる場の設定に配慮したり、指導方法を工夫改善した成果だと考える。
- ・数学科・英語科で取り組んでいる習熟度別少人数学習に関しての全校生徒に対するアンケートでは、よいと思う-52%、どちらかといえばよい-38%、どちらかといえばよくない-4%、よくない-4%という結果であり9割の生徒が学習しやすいという感想を持っている。

2. 今後の課題

- ・習熟度別少人数学習の中においても学力差があるため、個に応じた教材の開発がさらに必要である。
- ・今年度数学科・英語科を中心に研究した個に応じた指導方法について、他の教科でもその教材開発等を中心に研究を深めていく。

学力等把握のための学校としての取組

- ・数学科で4月、7月に、英語科で4月、7月、12月に、それぞれ同じ問題で基礎力テストを行い、実態をつかみ変容を把握した。
- ・生活習慣、学習習慣、学習全般についてのアンケートを行い実態を把握した。
- ・数学科・英語科において、習熟度別少人数学習や学習分野の興味関心等についてのアンケートを行い実態を把握した。
- ・数学科・英語科において、小テストを含んだ自己評価表を用い、一人一人の授業に対する興味関心や理解度を把握した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会の開催

- ・7月4日、本校にて市内の英語部会を開催し、習熟度別少人数学習の研究授業を行った。
- ・11月18日、本校にて学力向上フロンティア事業中間指導を受けた。その際、近隣校に呼びかけ、数学科・英語科の習熟度別少人数学習を公開した。
- ・1月23日、本校にて学力向上フロンティア事業中間発表会を行った。その際、松浦・平戸・北松の一部に呼びかけ、研究概要や数学科・英語科の習熟度別少人数学習、全校基礎学習を公開した。
また、今年度の取組についても、紀要と資料を作成し研究成果の普及に努めた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無